



“今”の自分を見つめ、“これから”の自分を考え、行動していく子どもたち
～小学部における道徳科の授業づくり～

熊本県立天草支援学校小学部

本校小学部ではH28年度より、道徳教育の要となる特別の教科道徳（以下道徳科）を週時程に位置付けて（1時間/月）授業を行っています。知的障がいのある小学部の子どもたちにとって、道徳的価値の理解や抽象的な概念の理解は難しい面もありますが、一人一人の子どもの言動を、言語化し、意味づけ、価値化していくことを大切に、学部職員で子どもの育ちを共有しながら授業づくりを行っています。道徳科の学習グループについては、前年度末に生活年齢や発達段階、実態等を踏まえ学部内で検討し、各グループで年間指導計画をもとに実施しています。



はーとグループ	1、2年生	7人
りんどうグループ	3、4、5年生	8人

H29年度 道徳科の学習グループ

	一般学級	重複障がい学級	計
1年	3	1	4
2年	2	1	3
3年	2	0	2
4年	2	0	2
5年	4	0	4
6年	0	0	0
計	13	2	15

H29年度天草支援学校小学部 道徳りんどうグループ 年間指導計画より

H29年度 小学部在籍児童数

月	実施日	学校行事	内容項目	重点項目	目標	資料 (自作の場合)	参考資料	関連教科等	系統性	内容
					りんどう					
4	18	・始業式 ・入学式 ・歓迎遠足	A: B:友情、信頼、相互理解、寛容 C: D:		ともだちと なかよくなる	シロクマのジェンガ	私たちの道徳 1・2年 p.6、7	人権教育	11月 12月	友達について知り、友達と一緒に遊ぶ
5	15	・あまリンピック	A: B:友情、信頼 C:よき学校生活、集団生活の充実 D:		みんなのために がんばろう	給食がな～い 挿絵		体育「あまリンピック」	7月 10月	挿絵を見て、自分の仕事を最後まで行うことがみんなのためになることを知る
6	12		A: B:親切、思いやり、礼儀 C: D:		れいぎめいじんに なる	動画 名人シート	私たちの道徳 1・2年 p.54～59 私たちの道徳 3・4年 p.60～63		4月 11月 12月	動画を見て、礼儀正しい行動を考える
7	10	・終業式	A: B: C:勤労、公共の精神 D:		やくにたつって うれしいな	やくにたつってうれしいな ペープサート	私たちの道徳 1・2年 p.130～143	学級活動 「長期休暇の過ごし方」	5月 10月	ペープサートでの導入後、自分の係がどのように役に立っているのかを考える
9	11	・始業式 ・学部生単（おでかけ）	A:善悪の判断、自律、自由と責任 B: C:規則の尊重 D:		よいことと わいこと	黄色いバンチ:1・2年 124p～	私たちの道徳 1・2年 p.34、42、118、122	生活科 「きまり」「公共施設」 校外事前学習 基本的なルール	12月	「どうしてルールやマナーがあるのか」を知ったり考えたりする
10	18	・であいふれあいフェスタ	A:節度、節制 希望と勇氣、努力と強い意志 B: C: D:		じぶんのことは せいにまで じぶんで がんばろう	ウサギとカメ スポーツ選手	私たちの道徳 1・2年 p.22～25	生活単元学習 「ためしてはげせん！ A M A S!」 じっけんたい、 体育「ダンス」	5月 7月	Aグループ:自分のことをふりかえって努力のよさや意思に気付く B・Cグループ:読み物教材を使って努力について知る、考える

授業実践より

小学部りんどうグループ（3・4・5年生：8人）において7月に実施した『“役に立つ”ってうれしいな』【主題名：勤労 C-(12)(13)】の授業より、以下の3つの視点でまとめ、知的障がいのある子どもたちにとっての道徳教育の意義について考えてみたいと思います。

価値項目の理解につながるお話（資料）の提示の仕方
子どもたちの発達段階を踏まえた「考える場面」、お互いの考えを「認め合う場面」の設定
一人一人の“今”の姿を見つめ、“これからの生活”につなげる評価

価値項目の理解につながるお話（資料）の提示の仕方

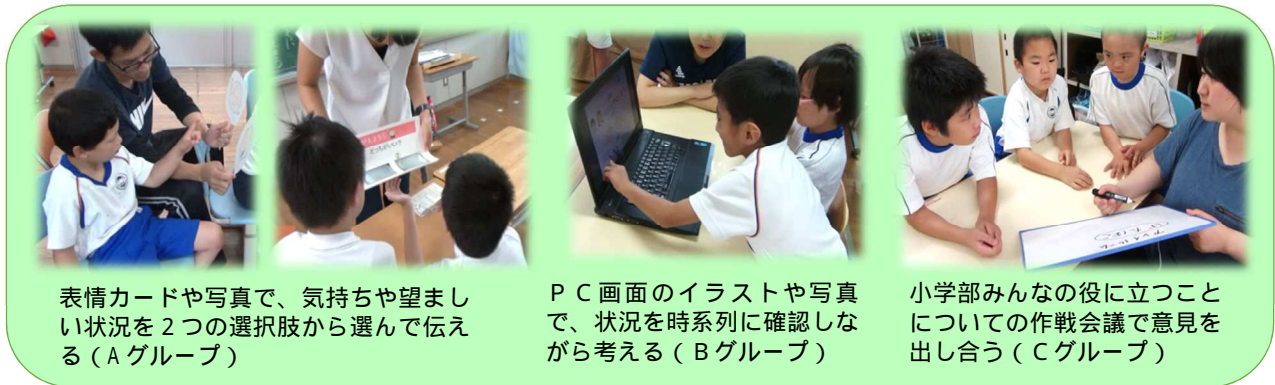
紙芝居やペープサートを用いて資料（お話）を提示することで、子どもたちは興味関心をもち、ペープサートの登場人物の動きや言葉に注目することができます。他にも、状況を思い浮かべやすいように、教師が演じたVTRで提示したり、子どもたちの実際の生活場面をVTRで提示したりすることもあります。資料（お話）のストーリーについては、抽



象的な表現は避け、できるだけシンプルにし、登場人物等の言動や各場面の状況を理解したり、本時の価値項目に気づいたりすることができるよう毎時間 T1 を中心に教材作成を工夫します。

子どもたちの発達段階を踏まえた「考える場面」、お互いの考えを「認め合う場面」の設定

「考える場面」では、一人一人の実態に配慮してグループ活動を取り入れていています。本題材では、日頃の自分の係活動がクラスの皆の役に立っていることに気づき、働くことのよさを知り、みんなのために進んで働くことで、役に立つ喜びを感じるという価値項目に迫るために、考えるプロセスにおける手だてを各グループの実態に応じて工夫しました。さらに、各グループで考えたことを、「認め合う場面」を設定し、お互いに伝え合うようにしました。



③一人一人の“今”の姿を見つめ、“これからの生活”につなげる評価

授業前には、担任とT1で一人一人の子どもの実態や課題を共有した後、本時における個別の目標を決め、目標及び評価シートで共通理解を図っています。授業中は、子どもの発言や表情等、わずかな変化も大切に観察し、授業後に目標及び評価シートに各グループの担当者が記入し、授業者全員で共通理解を図ります。また、発問は適切であったか、資料の提示の仕方や手だてについても適切であったか等についても、授業者間で共通理解を図り、次時や次年度の授業改善に活かすようにしています。

生活の中で、主体的に 実践する姿



Cグループの子どもは本校最上級生の5年生。道徳の時間に、小学部のみんなのために・・・と考えたことを、早速実践し、2ヶ月経った今も継続して、自分から進んで取り組んでいます。教師にとっても試行錯誤の道徳の授業づくりですが、子どもたちの心にまいた種は、確実に芽を出し、実を結ぶと信じて、これからも意義深い道徳教育に取り組んでいきます。

